

18. 秋冬ネギの葉鞘径の肥大予測法

福島県農業試験場いわき支場・平成11年度秋冬作試験成績概要

- 1 部門名 野菜－ネギ－生育診断予測 03－37－25000000
- 2 担当者 常盤秀夫・石井睦美・飯塚博栄
- 3 要 旨

秋冬ネギの葉鞘径の肥大パターンを、4月は種、7月定植の作型において検討した。分けつ系品種「西田」と一本太系品種「東京冬黒」を用いて、大苗(15～13mm)、中苗(12～10mm)、小苗(9～7mm)の苗の大きさ別に、平成8年～10年の3年間、旬ごとに調査した結果わかったことは、以下のとおりである。

- (1) 定植後の葉鞘径は両品種とも、小苗、中苗では3月まで肥大を続けるが、大苗では1月下旬に最大となり、その後やや減少する。
- (2) 品種別、苗の大きさ別にみると、葉鞘径は、定植後の日平均気温との相関が高く、定植時の苗の大きさと、日平均気温のデータから、葉鞘径の肥大予測が可能である。